

2016年度 第3回 物理学科談話会

『量子力学の日本への移入と杉浦義勝』

中根美知代

(立教大学兼任講師)

2016年7月8日(金) 18:20-19:20

立教大学池袋キャンパス 4号館3階4339

1920年代半ば、量子力学建設期のヨーロッパに留学した理化学研究所研究員・杉浦義勝(1895-1960)は、この分野で影響力のある成果を挙げて帰国し、日本に量子力学を移入する上で大きな役割を果たした。杉浦の手紙類や原論文、講義録にあたることにより、このことを具体的に示していく。

「日本に量子力学を伝えたのは仁科芳雄」が通説であるが、仁科・杉浦とすることにより、量子物理学の日本への移入と展開の歴史に新たな見通しが得られることも指摘する。杉浦は戦後、日本初の私立大学理学部を立教大学に創設した人物でもあった。



1927年初夏・ゲッチンゲンの下宿先の近くで
左：ディラック 中央：杉浦 右：オッペンハイマー